

福江港

長崎県土木部港湾課

〒850-8570 長崎市尾上町3-1

☎095-824-1111(代)

URL : <http://doboku.pref.nagasaki.jp/~kouwan/>



1. 概況

〈西海の要港〉

福江港は五島列島の最南端福江島の東岸に位置し、東方約1カイリにサザエ島を、北方約半カイリには庖丁島、屋根尾島、竹ノ子島等を擁し、北風を遮り天然の停泊地をなしている。

付近一帯の多島海は、西海国立公園指定区域でもあり、島を訪れる観光客の目を楽しませている。

本港の港域内水域面積は約1.4km²であり、その港域は、「石切鼻から117度970メートルの地点まで引いた線、同地点から181度に引いた線及び陸岸により囲まれた海面」である。

福江港が所在する五島市は、平成16年8月、旧五島藩の城下町であった旧福江市と下五島5町が合併した五島列島最南端の市である。

本港は従来、福江川河口、上大津港、戸楽港等船溜の入江であった。当時より周辺離島の中心的役割を果たしており産業、文化、交通の発展に伴い港湾施設の機能劣性、狭隘さが目立ち、これらの不便さを軽減すべく昭和7年工費35万6千円の国費をもって福江港整備を開始し、さらに昭和12年県工事により表玄関口としての体裁を整え中心港たる面目を一新した。しかし福江平野中央を北東に走る福江川が本港に注いでおり、港内の水深は漸次浅くなり船舶の出入に不便を来たしてきた。

昭和26年9月重要港湾に指定され、昭和27年5月県管理港湾となり、その間昭和25年より港湾計画をたて本格的整備に着手した。当時の港勢は、取扱い貨物約26万トン、入港船舶22,600隻と盛況で、中心港たる威風を呈していた。

〈本格的整備〉

五島の玄関口福江港の整備は旧港内の浚渫に始まったが、本格的整備は昭和25年より港湾計画に基づいて始まり、昭和28年から昭和34年までに、港の中央部大波止地区の北防波堤200mを、昭和35年から昭和46年までに南防波堤190m、旧南防波堤の嵩上250mを完工し外郭を固め、一方昭和34年から昭和38年までに物揚場(-1.5m)100m、物揚場(-2.5m)50m、物揚場(-3.5m)190mを、さらに昭和42~43年に物揚場(-3.0m)170mを完工し大波止地区の旧フェリー埠頭一帯の概要を整えた。これらの施設設備に並行し背後埋立ても施工され、当初「海城」だった石田城も水際線より約200m後退し、今ではその埋立地に倉庫、商店、民家が整然と立ち並び活況を呈している。

大波止地区の北に位置する丸木地区では、昭和39年から昭和48年にかけて、防波堤北110m、物揚場(-3.0m)245m、物揚場(-1.0m)130m、埋立地約48,000m²を整備し昭和61年からは新計画の基に防波堤3号を直轄事業で着工すると共に、いよいよ本格的な整備に着手した。

大波止地区の南に位置する大津地区では、昭和47年から昭和53年にかけて、天神防波堤370m、物揚場(-3.0m)150m、物揚場(-2.0m)150m、物揚場(-1.0m)70m等を整備した。

また、平成18年度から平成22年度にかけて、大規模地震等が発生した場合に備え、緊急物資の受入等の拠点として、国土交通省の直轄事業で大津地区の岸壁(-7.5m)130mの改良(耐震化)が行われた。

〈新しい港湾を目指して〉

長崎県は、多くの島に港湾が存在しているが、中でも本港は、長崎航路や博多航路をはじめとするフェリー航路の拠点港である。背後には五島列島随一の市街地を抱えており、「港づくり」が「街づくり」と密接な関係を有していることから、地域住民の豊かな生活環境創造のための港づくりが必要であるとの認識が高まってきた。

このような状況に対応するため、平成10年に福江港港湾計画を改訂し整備が進められ、平成17年3月には、新ターミナルが供用開始された。また、2万総トン級のクルーズ客船に対応した岸壁(-7.5m)270mを整備し、ほぼ毎年のようにクルーズ客船が本港に寄港し、福江島を訪れている。なお、新ターミナルの周辺には緑地公園が完成し、多くの市民の憩いの場として利用されている。

このような中、平成20年3月には、「みなとオアシス五島福江(福江港)」(<http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/oasis/index.html>)にも認定され、海路の拠点「福江港ターミナル」、福江港の憩いの場「五島港公園」を中心に各種イベントも開催され、たくさん人々が訪れる空間となっている。

今後も本土や周辺離島との人流・物流の中継基地として地域の活性化に貢献する港を目指している。